

中部運輸局 交通支援室

平成 30 年 2 月 2 日 発表



公共交通の先進的な取組を
支援等しています

http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/minpro_ex/

【連絡先】

国土交通省 中部運輸局 交通支援室
伊藤、神戸、渡邊
TEL 052-952-8050

第三者評価委員会に向けた各協議会の「自己評価」資料を公開します

中部運輸局では、地域公共交通確保維持改善事業に関する「第三者評価委員会」を2月19日（月）から3日間の日程で公開開催します。

この度、第三者評価委員会の開催に向け、各協議会から提出された一次評価の結果を、中部運輸局ホームページに掲載しましたのでお知らせします。

【URL】 <http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/hyoka/index.html>

また、中部運輸局で自治体間の交通流動を調査整理し、流動が多く地域公共交通の各種施策を進めるうえで連携を進めるべき地域として「交通圏」を定義するとともに、関連資料を併せて公表いたします。なお、第三者評価委員会においては、この「交通圏」を意識し圏域毎の進行としております。

同委員会は、各地の公共交通の現状・課題・将来像が議論される格好の機会であり、評価資料や議論が公開されることで委員会の目的が広く周知され、公共交通に対する意識が高まることを期待しています。

【第三者評価委員会 開催概要】

1. 日 時：平成 30 年 2 月 19 日（月）～ 平成 30 年 2 月 21 日（水）
各日 10：00～17：30頃 開催（出入可）
2. 会 場：名古屋合同庁舎第1号館 11階 運輸大会議室
愛知県名古屋市中区三の丸2丁目2-1
3. スケジュール・時間割
：HP 掲載のとおり



【第三者評価委員会の様子】

中部運輸局 交通支援室

平成30年1月29日発表



公共交通の先進的な取組を
支援等しています

http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/minpro_ex/

【連絡先】

国土交通省 中部運輸局 交通支援室
伊藤、神戸、渡邊
TEL 052-952-8050

「地域公共交通」の一斉診断－「第三者評価委員会」を開催・公開します
～ 公共交通政策の可視化・議論の活性化を目指すとともに、広域的な新機軸を導入～

中部運輸局では、2月19日（月）からの3日間、地域公共交通確保維持改善事業の「第三者評価委員会」を開催いたします。

多くの予算が支出されている地域公共交通政策の可視化・議論の活性化を目指し、昨年より、全国の運輸局に先んじて委員会を全面公開としております。今年度からは、見逃されがちな、広域的な流動やモード横断的な連携の視点を新たに導入します。

■ 中部運輸局管内市町村（協議会）における地域公共交通政策の現状

<予算関係>

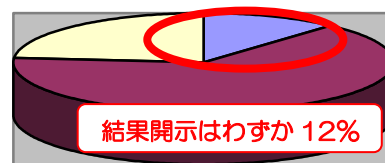
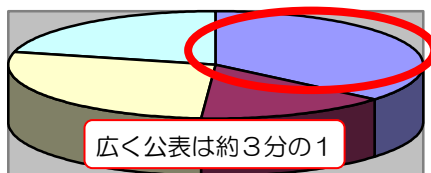
- 管内市町村の公共交通予算総額：約230億円（H26年度、中部運輸局調べ）
- 管内協議会・事業者への国庫補助総額：約22億円（H28年度予算、バス運行に係るもの）

<情報開示関係>—公共交通に関する事業評価の公表状況

- 自己評価結果を広く公表している市町村：約36%（H28年度中部運輸局調べ、グラフ1）
- 第三者評価委員会結果を広く公表している市町村：約12%（H28年度中部運輸局調べ、グラフ2）

（グラフ1：協議会での評価公表状況）

（グラフ2：第三者評価委員会結果公表状況）



■ 広く公表 ■ 関係者にのみ公表
□ 公表していない □ 評価未実施等

■ 広く公表 ■ 協議会で公表 □ 公表していない

地域公共交通、ことバスの運行に関しては、国・市町村が多くの予算を支出しているが、必ずしも利用者・住民目線での評価が実施されているとは言いがたく、利用者・住民への情報公開、意見聴取の更なる促進が重要。

＜多様なモード・広域交通に関する関与＞ ※平成 29 年度中部運輸局調べ

- 鉄道に対して補助を実施している市町村—35 市町村
- 市町村境を跨ぐ、広域的なバスに対して補助を実施している自治体—65 市町村

鉄道に関しては、特に地域鉄道沿線市町村は何らかの補助を実施している場合が多い。一方、広域的なバス路線への補助は、管内の約 3 分の 1 の市町村にとどまり、国庫補助や事業者の自主努力にゆだねているケースが多い。
従って、バス・鉄道の補助の重複や、維持すべき広域路線の議論が重要。

■ 中部運輸局独自の取組

① 「ネットワークの評価」（従前より実施）

「国庫補助」のみならず、地域の交通ネットワーク全体を自己評価していただき、補助や財政支出が、真に地域公共交通の改善に資するかを議論。

② 評価プロセスの公開（昨年度より実施）

評価委員会を完全に公開、資料もHPにて公開することで、地域公共交通の現状の可視化を目指す。

③ 多様な委員の導入（本年度より実施）

第三者評価委員会の構成メンバーとして、昨年度に引き続き伊豆原 浩二客員教授（愛知工業大学）、加藤 博和教授（名古屋大学）に参加いただくとともに、今年度は新たに土井 勉特任教授（大阪大学）、岡村 敏之教授（東洋大学）、石川 良文教授（南山大学）を委員として招き、各分野・立場からの意見・助言をいただく。

④ 広域的、モード横断的な視点での議論を実施（本年度より実施）

中部運輸局において管内の交通流動を整理し、流動が多く連携すべき市町村を「交通圏」として定義。

同一の「交通圏」に属する市町村が一同に介して議論を実施することとし、広域的バス路線と鉄道との役割分担や、危機的となっている広域的バス路線への対応方針などについて議論を実施予定。

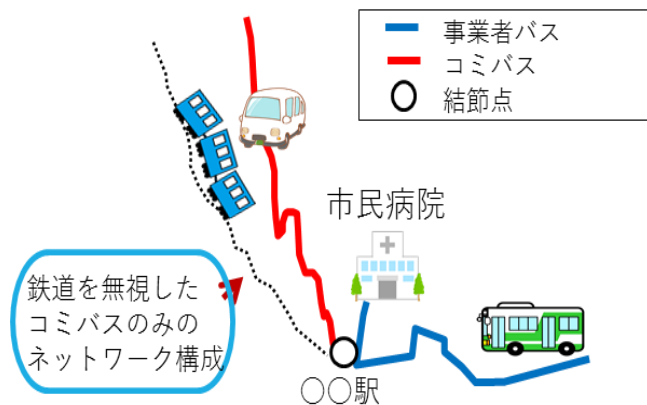
■ 第三者評価委員会概要

1. 日 時：平成30年2月19日（月）～ 平成30年2月21日（水）
各日 10：00～17：30頃 開催（出入可）
2. 会 場：名古屋合同庁舎第1号館
11階 運輸大会議室
愛知県名古屋市中区三の丸2丁目2-1
3. スケジュール・時間割等：別紙のとおり
4. 備 考：記者席を設けておりますので、
取材の場合はご自由にお入り下さい



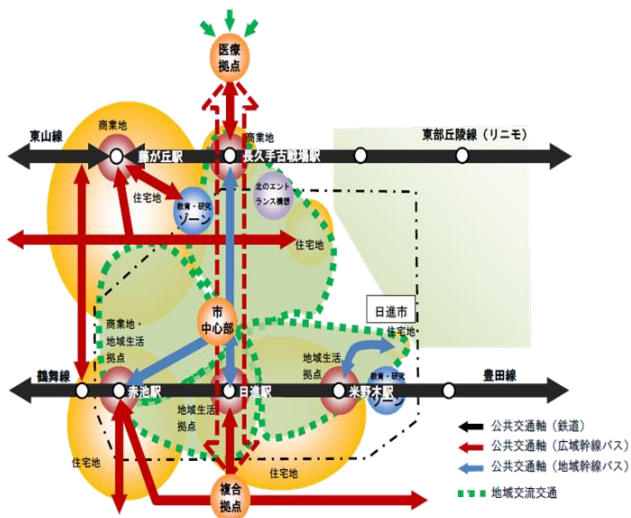
【第三者評価委員会の様子】

■（参考）典型的な非効率なネットワーク



- 鉄道に並行するコミバスを走らせることで、機能が重複したネットワークを構成
- 事業者が運営するバスとの接続などを考慮せず、事業者が廃止意向を表明する段階で対応を検討

■（参考）広域的・モード横断的な視点をもったネットワーク事例



■愛知県日進市

- 平成 29 年 4 月 バスネットワークを再編
- 事業者が運営するバス、コミバスの接続・連携、他都市にある医療施設・駅など人の流動を意識したネットワークを設定